



## 令和6年度 校長の学校経営方針について

新年度が始まり、1か月が過ぎようとしています。教室や運動場からは大きな声が聞こえ、楽しそうに学習する姿が見られます。

さて、4月23日(火)、今年度最初の参観日の学級懇談で、校長から学校経営方針について、リモートで簡単に話をさせていただきました。その内容について、もう少し詳しく学校だよりの紙面を借りてお伝えします。長文で申し訳ありませんが、目を通していただけたら幸いです。



チーム神在！！



4月の始業式で子ども達に、こんなお話をしました。「今日から始まる新しい学年で、校長先生や先生方と一緒に笑顔があふれる神在小学校になるために、みなさんにこんな子になってほしいという願いを3つお話しします。まず1つ目『仲よくする子』になりましょう。困っている人がいたら優しく声をかけ、助けてあげましょう。友達の心や体を傷つけるいじめは絶対に許しません。次に2つ目『進んで学ぶ子』になりましょう。どんなことも、まずは自分で考えてがんばってみましょう。最後に3つ目『よく働く子』になりましょう。学校のため、友達のため、地域のため、そして家族のために力を合わせましょう。

『仲よくする子』『進んで学ぶ子』『よく働く子』をめざして、先生方とみなさんと「わかる喜び」「できる喜び」「通じ合う喜び」を感じながら、笑顔があふれるチーム神在小にしていきましょう。」こんな話をしました。

「仲よくする子」「進んで学ぶ子」「よく働く子」がめざす児童像です。「『わかる喜び』『できる喜び』『通じ合う喜び』を感じ、笑顔があふれる学校」がめざす学校像です。これらをめざして、全ての教育活動を行っていきます。そのために、ぜひ保護者の皆様方のお力もお借りしたいと思います。子ども達の健やかな成長を支える教職員のめざす姿は「効率的に職務をこなし、自分の時間を大切にしたい心身ともに健康な教職員」「公務員としての自覚と責任、誇りをもった教職員」「チームで協働する教職員」です。保護者の方、地域の方、教職員でともにつながり合い、力を合わせ、「チーム神在」で子ども達の笑顔のために1年間がんばっていかれたら願っています。

さて、「チーム神在」の一員である保護者の方々に「笑顔があふれる神在小学校」に向けて、ご協力いただきたいことが3つあります。

1つ目は「自分は思うのか、どうしたいのか、子どもにたずねる」ことです。最初から大人が全て決めるのではなく、子ども自身が自分で決めて行動する経験を重ねさせてやってください。2つ目は「『あなたがかわいくて、好きで、誰よりも愛している』というメッセージを言葉や態度で子どもに伝える」ことです。しっかり意識して伝えてやってください。3つ目は「学校や担任の批判は子どもの前では言わない」ことです。ご批判やご意見をしっかりといただけることは学校や教員にとってありがたいことです。ぜひ、直接学校や担任までお届けください。

「自分は思うのか、どうしたいのか、子どもにたずねる」「『あなたがかわいくて、好きで、誰よりも愛している』というメッセージを言葉や態度で子どもに伝える」「学校や担任の批判は子どもの前では言わない」、この3つ全てが、子ども達の自分大切にされているという安心感に繋がります。この安心感が自己肯定感に繋がります。この自己肯定感は生きていく土台となり、失敗や挫折を乗り越えていく力になります。どうかよろしくお願い致します。

さて、学校として大切にしたい思いがあります。その思いとは全ての教育活動は特別支援教育の考え方をもとに行っている、ということです。神在小学校には「なかよし学級」と「ひまわり学級」という特別支援学級があります。子ども達はみんなそれぞれ外見や、好きなものや嫌いなものが違うように、勉強も大勢でした方が伸びる子や少ない人数で静かな環境でゆっくりと繰り返し学習した方が伸びる子がいます。そういう環境で学習することが将来の暮らしにプラスになります。

大勢の中では順番が待てなかったり、その場に合わないことを言ったり、大きな声を出したりすることがあっても、その子の個性としてとらえ、「順番だから待とうね」とか「一緒にしようか」とか「まずこれして、次にこれしようね」とか、その子に合った声かけができたかと考えています。ぜひ保護者の方々にも同じような思いで、神在小学校の子ども達全員に接していただけると嬉しいです。そして、お互いに悩みを共有し、先生と保護者、子どもたちみんなで成長しようとする気持ちを大切にしていきたいと思えます。

さて、最後にいじめに対する国や県の方針について少しお話します。小中学生に対する最近の国の調査では、小学校6年間の間に「仲間はずれや無視、陰口」といういじめをされた経験がある児童は9割、いじめをした経験がある児童も9割という結果が出ています。この数字が物語っているのは、いじめはどの学校、どの子どもでも必ず起こりうる問題であるということです。

県としては重大な事態になる前に、けんかやふざけ合いのような、一見小さな出来事と思われるものでも、嫌な思いをしている子どもの立場に立って、いじめ防止対策推進法のいじめの定義にある「当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」という内容に照らし合わせ、いじめかどうかを判断し、積極的にいじめとして認知していく方針です。これは本校でも同様です。

国や県としては、いじめの件数が多い学校は良くない学校ととらえるのではなく、逆に、いじめに対して敏感に向き合っている学校とプラスにとらえていきます。いじめと認知されましたら、解消されるまで必要な見守りや聞き取りを継続していきます。保護者の方々にも児童の小さなサインに目を向け、何か心配なことがありましたら学校や相談機関に相談してください。

それでは、今年1年、「チーム神在」でともにつながり合い、力を合わせ、気持ちを合わせ、「笑顔あふれる神在小学校」をめざして取り組んでいきましょう。どうぞよろしくお願いいたします。



神在小 HP では「学校だより」や「ある日の神在小」、「学校からのおしらせ」を更新しています。「神在小学校」で検索をしていただくか、スマホ・タブレットからは右の2次元コードでアクセスできます。ぜひご覧ください！なお、学校だより等、HP 上の内容を個人 SNS へ掲載するのはおやめください。

